

●6月25日(木) 小雨 移動(滝上～旭川～層雲峡)

○冷たい小雨の寒い一日。 風邪が治らない!

・4:30 目覚め、5:30 起床。依然風邪が治らず、喉が痛いし咳と痰が出始めたし、熱っぽい。なんだか重症化しているな。天気はさっきまで明るかったが、今はどんよりと曇ってきた。周りにはほとんど車がいなくて寂しいし、外気温は12℃で寒い!
車内で朝食を摂り8時半に出発した。今夜は毎年お世話になっている層雲峡のYHに予約してある。



まず森林管理署へ行って久しぶりのM嬢と会った。
なんだか生き生きとして元気そう。
しばらくお話してお別れした。
道道61号線を西に向かい愛別から旭川をめざした。



・しばらく走って、ちょっと熱っぽいので、駐車スペースに車を止めて熱を測っていたら、車の窓をコンコンと叩く人がいる。変なおじさんが立っている。窓を開けると「俺はここでマスの養殖をやっていたが、林道を造ると云って林を切り開いたので水が出なくなり、養殖が出来なくなった。」と話が始まり、森林の保護がいかに大切かの熱弁をはじめた。私も自然の保護には共感するところがあるので、話を聞いてあげた。「マルニ農林水産(株)」なる会社の社長貫田一成の名刺をいただいたが、かなりのご老人。アイヌ犬を10頭以上従えている。純粋のアイヌ犬で貴重なのだそうだ。小型だが気性の荒い犬らしい。



「荒らされた林道を案内する」と云うので、熱があって休みたいのに、しかたなく、貫田老人の後について荒れ果てた林道の中に少し入って歩いた。いやはや弱い霧雨の中1時間くらい道草を食った。



・愛別のスーパーで買い物をし、旭川で薬屋に寄って風邪薬を購入。結局稚内病院でもらった薬は何の効果もないまま終わってしまった。まるで今年の北海道は風邪薬を買うために来たような感じだ。旭川から層雲峡の道は何回も走っていて通い慣れた道だ。4時過ぎになんとか層雲峡YHに辿り着いた。雨が降っていて寒い。

・今日の宿泊者は 10 人位だそうだ。私の同室には台湾の青年が来た。話しかけたが日本語が全然わからず会話が出来ない。コインランドリーで洗濯・乾燥などして時計を見たら 5 時半を過ぎている。夕食は 6 時からなので風邪で熱っぽい朝陽館の温泉に行った。7 階にある、向こうが見えないくらい広い展望大浴場かと思ったら今日は男湯と女湯が入れ換わっていて、こじんまりとした浴場に檜の浴槽があり露天風呂が付いていた。初めて入ったがこれもなかなかのものだった。

・夕食の食卓は台湾の青年とフィンランドの男性、北欧の少女 2 人組、日本のおばさん一人と福島の男性 4 人グループと私の 10 人。北欧の少女は夕食を取らず牛乳とクッキーを食べていた。 皆さん言葉が違うし無口な方ばかり、会話が無く静かな食卓だった。昔は山の話に花が咲いて賑やかな時もあったな、懐かしいな。

・私の寝室に同室は、台湾の青年とフィンランドの男性だったが、二人とも日本語が全く話せずここでも会話な無い！

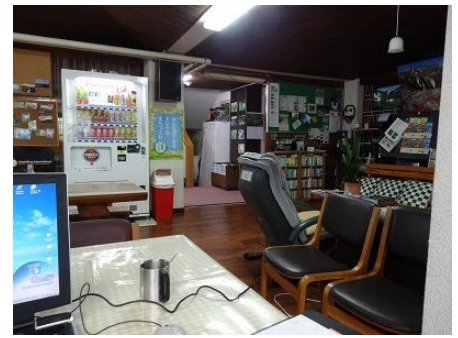
熱を測ったら 37.2℃もある。全身が熱い。9 時半に就寝。



●6月26日（金） 朝小雨・徐々に晴天となる 移動（層雲峡～富良野～新篠津）

○ 風邪が治らないし、天気は期待できないし、義母の具合が良くないというし、帰宅を決意。

・6時に起きたら同室のフィンランドの男性はもういない。台湾の青年はのんびりと横になっている。食堂（ロビー）にパソコンを持ち込んでサンドイッチを食べながらメールをチェック。とにかく風邪が良くならず、熱が今でも 37℃以上あって辛い。天気予報を調べると、今後も天気は安定せず、日替わりで雨、曇、晴れが繰り返していてこんな調子がずっと続くなり。今日は裏の朝陽岳に登ろうかと思ったが小雨が降っているし、すっかり戦意を喪失した。「風邪を完全に治すのが先決」、こんなに雨がなくて気温の低い北海道では回復は無理だし、榛名の義母の状態が良くないとの連絡もあったのでここで帰宅を決断した。早速小樽のフェリーに連絡して明朝のフェリーを予約し、今夜の泊まりは新篠津に決めた。



早朝 6 時 層雲峡 YH のロビーで

・9 時過ぎに小雨の中層雲峡を後にして新篠津をめざした。
台湾の青年と北欧の少女らはまだ残っていた。



・帰るとなればお土産の心配をしないとならない。旭川空港へ寄った。なんと天候はどんどん回復し旭川空港に着いたころにはすっかり晴れ上がり大雪山系が良く見えるようになった。

・空港に入って驚いた。
人でごった返している。

何だこれは！
こんな混雑している旭川空港は
初めてだ。良く見ると中国が
韓国の団体が来ているらしい。



・お土産の買い物を済ませて新篠津へ向かったが、あまりに
天気が良くなったので美瑛に行ってみようと寄り道した。
気温は 26℃で真夏の暑さが戻ってきた。

「ぜるぶの丘」という綺麗なファームがあったので寄った。
初めて入ったがなかなか綺麗なファームだ。美しく整備された
花畑の向こうには、雪を残して聳える旭岳がくっきりと望め、
それに続いて大雪山系の山並みがトムラウシから十勝岳へと
見えている。天気予報を見ると上川地方の現在は曇から雨だ。
いったいどうなっているの？ 今日層雲峡から出てきたのが大損をした気分だ。



ぜるぶの丘・遠くには大雪山系が見え

・ぜるぶの丘からは、また旭川へ戻ってから国道 12 号線に乗って新篠津へと向かう。快晴真夏の炎天下を
深川・滝川へと南下し滝川から 275 号線に入って南下を続ける。途中時々休むたびに天気予報をチェック
したが、今日通ってきた所はもちろんこの先の岩見沢地区まで広範囲に「曇・雨」となっている。
実際は曇一つない快晴の状態だ。いったいどうなっているのか？
臨機応変に「晴れ」に訂正すれば良いのに。

・道の駅「新篠津」に 4 時に到着。
ここまで来ると天気はうす曇りとなりちょっぴり寒い。
週末のせいかなかなりの車が止まっている。

・車内をいろいろと整理したりパソコンをしたりした後、風呂へ行
ってからレストランで最後の晩餐をするのが毎年のパターン。
風邪で熱があるが今年もまず温泉でゆっくり温まってからレストランへ行った。



道の駅「しんしのつ」

・今年の夕食のチョイスは Good だった。

「湯あがりセット+冷や奴」に生ビールの追加で出来あがり、メニューを見たら「おにぎり」とある。コンビニのおにぎりを想像していたら、なんと、手で握って海苔を巻いた大きなおにぎりが出てきた。すっかり満足して最後の晚餐を終えた。

・レストランは泊まりの団体客が大勢いて賑やかだった。



・いいかげんに風邪が治ってくれないかな！ もう一週間も風邪と戦っているぞ。
すっかり体力に自信を無くした今年の北海道だったな。

●6月27日（土）～ 6月28日（日） うす曇り 北海道を去り、新潟港から帰宅

○ 朝フェリーで小樽を出て帰途に着いた。風邪の微熱は治らない。

・4時過ぎに目が覚め、顔を洗って5時過ぎに道の駅「新篠津」を後にした。天気は良好とまではいけないうす曇りで見通しは良い。新篠津から小樽への道は札幌の市街を抜けなくていいので楽だ。早朝の道路は車は少ないし信号もあまりないので高速道路なみの走りが出来て気持ちが良い。

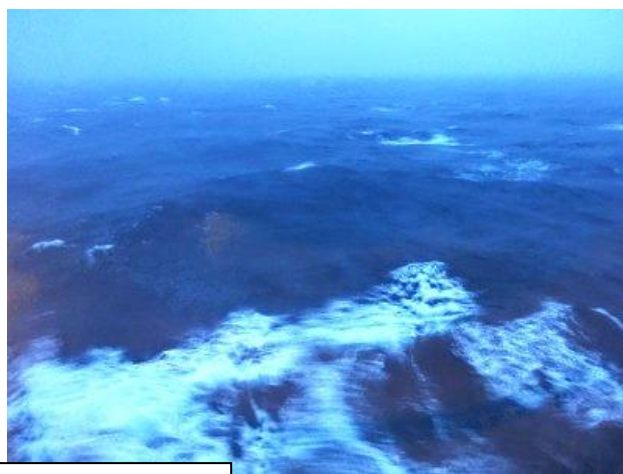
・6時半にフェリーターミナルに着いてしまった。乗船は9時半だから少々早すぎたな。ガソリンを給油したり船中での食料を買い出ししたりして時間を潰した。7時半から乗船の手続きが開始され、9時半からの乗船を待った。乗船待ちで私は2台目、後についた車が意外に多いな！ オートバイが20～30台並んだ。

・船は「ゆうかり」、定刻通りに10時半に出港した。
デッキに立って離れて行く小樽の街を眺めていたら、今回は何か寂しさと悔しさが入り混じり、涙が止めども無く流れてきた。チクショウ！！





- ・ 11 時 48 分：積丹沖を通過。展望は良好で山並みが良く見える。今回小樽に着いた日に登った「積丹岳」大雨に降られて途中で引き返したな！ また来るかな？ たぶん来ないだろうな、などと思いこぼれた。
- ・ 例によって穏やかな航海、日記を書いたり、本を読んだり、タブレットでメールをしたりのんびりしながら何回も体温を測定するが、36.7℃の微熱が治まらない。
- ・ 5 時頃から天候が悪化し、6 時頃に津軽海峡沖を通過する時には猛風雨で浪の高さが 3~5m 以上もあり船が大きく揺れた。この航路は 10 年間も乗っているが初めて経験する荒れ方だ。今年の北海道山紀行は何か全てがおかしいな！ 船が波と波の間に落ちて、ドン！ドン！と船底を打つ音が響いている。



大しけの日本海を初めて経験した

- ・ 7 時：レストランで夕食。ビーフシチュウに生ビール。ほろ酔い気分と船の揺れ、ドン！ドン！と船底を打つ音を子守唄に眠りについた。
- ・ 6 月 28 日（日）3 時過ぎ新潟に近づいたころには海も穏やかになり、予定通り 6 時に小雨降る新潟に下り立った。あんなに荒れた海だったのに時間通りの航行が出来るものだなと感心した。依然風邪で微熱があり辛いので早く休養したい。一目散に自宅をめざした。
- ・ やっぴりおかしいな、10 年間も通って慣れているはずの新潟亀田インターを通過してしまい、新潟西インターまで回り込んでやっと高速に乗った。乗ったのはいいがすごいどしゃ降りの雨で前が良く見えないほど。関越トンネルを抜けると天気は好転し、高坂 SA あたりでは快晴になった。久しぶりで出会った夏の猛暑と青空だ。12 時前に無事我が家に到着し、波乱に富んだ今年の「北海道山紀行」の幕が下りた。



追記

結局風邪が完治するのに一週間以上もかかり、その後体力の減退で山へ登るのもつらくなり、
体力が回復して山に復帰できたのは10月を過ぎてしまった。

やはり歳をとったものだと実感した。

体力が回復したら現金なもので、来夏は同じコースをリベンジしてやろうと意欲が湧いてきた。

完